

◆全てがこれまでにない特別価格 懇親会付で4,000円! ◆各定員25名と小規模ですが、講師と近い距離でライブ感を味わえ、終了後には懇親会を設けておりますので余韻を楽しみ、軽食を取りながら仲間と語らうことができます。 ◆軽食は1階のベジタリアンカフェ「Veganic to go!!」が軽食を提供。 ◆講座を約2時間、懇親会2時間弱の計4時間程度を予定しています。夜の部は懇親会を短めとし22:30に終了とさせていただきます。

5/29
(金)

18:30
開場
19:00
開演
夜開催

エジソン&AINシュタインスクール協会
会長 鈴木昭平先生



子どもの脳にいいこと

～知的障がい、発達障がいは改善できます～

すべての知的障がい児は普通どころか、天才になれる可能性さえ秘めています。エジソンも、AINシュタインも、子どものころは学習障がいだったといいます。知的障がい児、発達の遅れが気になる子どもの親御さんは、「この子がせめて普通児になってくれれば」といいますが、「普通」などというレベルの問題ではなく、あなたのお子さんは「天才児」になることができるのです。

鈴木昭平(すずきしようへい)

1950年茨城県北茨城市生まれ。76年3月横浜国立大学大学院経営学研究科修士課程修了。経営学修士。「エジソンもAINシュタインも知的障害を持っていた。全ての知的障害児は天才性を秘めている」との考え方から2009年エジソン・AINシュタインスクール協会を設立。現在同協会会长。●書籍「ひかり速読法」「実践・成功脳の作り方」「マイナス2歳からの子育て」(KKロングセラーズ)など多数。

5/31
(日)

13:00
開場
13:30
開演

イルカCL
院長 三浦一郎先生



医師が語る毛細血管からの伝言

この日しか聞けない、そして三浦先生以外に語れる人がいないプレミアレクチャー!

毛細血管観察は患者さんの病気の有無や全身状態を把握するヒントになります。風邪の時、深呼吸後などに血流は速くなり、同じ方でも日によって血管像が異なります。また、生活の変化や薬物・サプリメントなどにより血管像は変化します。さらに同じ薬剤服用でも変化的程度が異なります。こうした場合に一人一人異なる考察が必要です。

三浦一郎(みうらいちろう)

医学博士 母の腎臓病をきっかけに医師を目指す。

1964年静岡県生まれ、1993年岐阜大学医学部卒業。内科研修後病理学に転向、医学研究科病因病理学博士課程修了。大学病院病理部勤務を経て、自然療法を病理学的な側面から判定すること、自然療法・補完医療のより良いかたち・一般的医療との接点を求めるPathology Conference Japan を立ち上げる。

東京の千駄ヶ谷で「イルカCL」という相談窓口を開設。

6/18
(木)

18:30
開場
19:00
開演
夜開催

三番町ごきげんクリニック
院長 澤登雅一先生



人より20歳若く見て、 20年長く生きる

～腸から始めるアンチエイジング～

お腹いっぱいに食べることが幸せな時代から、なにを食べるかが大事な時代になりました。いつでも、どこでも、食べるもののが簡単に手に入り、便利になったからこそ、私たちは自分の健康のために、よりよりもを主体的に選んでいくことが大切です。今日食べたものが未来の身体をつくります。アンチエイジング医学からみた食生活のポイントと全身の健康に影響を与える腸について最新情報を話します。

澤登 雅一(さわのぼりまさかず)

1992年東京慈恵会医科大学卒業。血液内科医として日本赤十字社医療センターで主に白血病や悪性リンパ腫などの血液がんの臨床に従事。2005年より三番町ごきげんクリニック院長。病気を診る立場から、病気にならないことの重要性を痛感し、アンチエイジング医療を実践するとともに、ライフワークとしてがんの治療に力を注いでいる。医学博士。・東海大学医学部血液・腫瘍内科非常勤講師・慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特任教授・日本抗加齢医学会専門医・評議員・日本内科学会総合内科専門医・日本血液学会専門医・日本がん治療認定医機関 がん治療認定医・米国先端医療学会(ACAM)キレーション治療認定医

6/28
(日)

13:00
開場
13:30
開演

横浜市立大学 国際総合科学群
教授 上村雄彦先生



「人類が生き残れるかどうか」という 究極の岐路で私たちは何をすべきか ～持続可能な地球社会を創ろう～

環境破壊、貧困、格差、紛争、感染症など、さまざまな地球規模の問題。これらの問題は、そう遠くはない将来「人類が生き残れるかどうか」という究極の岐路を突きつけています。どうすればこれらの諸問題を解決して、持続可能な地球社会を創ることができるか—これが教育・研究のテーマです。

上村雄彦(うえむらたけひこ)

国際総合科学群 教授 (学部)国際総合科学部国際都市学系グローバル協力コース(大学院)都市社会文化研究科 国際都市学系グローバル協力コース長。横浜市立大学が事務局となって設立したアカデミックコンソーシアムの活動を推進するグローバル都市協力研究センター長である。これまでスリランカ、ベトナム、パキスタン、イング、エクアドル、スコットランド、ブータン王国、コスタリカ、キューバなどで貧困問題、環境破壊、住民参加農村開発、環境と調和した持続可能な社会に関するフィールド調査を行う。また、2006年にはスウェーデン、デンマークでフィールドワークを行い、持続可能な福祉社会のヴィジョンと実現方法を探り、2007年はケニア最大のスマラ「キベラ」を訪れ、貧困問題の現状と解決策を考察した。

7/18
(土)

12:00
開場

12:30～五十嵐先生によるビーガニック料理 ランチパーティー
13:45～五十嵐廣子先生講演 14:30～渡辺茂先生講演
16:00～懇親会を1時間程度(スイーツとお茶)

本格的なビーガニック料理を 楽しみながら、食で人生を 変える究極の一日

「酸酵発芽玄米ごはん」
の試食ができます!



当ビルの1階のベジタリアンカフェ「Veganic to go!!」を主宰する五十嵐廣子先生と、当ビル運営のコーディネートをいただいた実践健康研究家の渡辺茂先生による「食と健康」の究極のコラボレーション企画。五十嵐先生の手料理を皆さんでいただくところから会が始まります。渡辺先生からは「予防・エネルギー医学の根本的な考え方と、その簡単な実践方法」の講義。

渡辺茂(わたなべしげる)

薬を売らない薬剤師、実践健康研究家、あまたらず株式会社代表取締役 厚生労働省開発財団、医療経済研究機構にて、各國医療行政等における調査研究を行なう。アステラス製薬勤務時代、医療用医薬品、予防医学関連事業に従事し、日・米・欧における医療業界でのビジネス経験を持つ。根本の健康を追求する中で、意識や体内に取り込む微細エネルギーの重要性に気づき、最も重要な身近なエネルギー摂取方法である食事をベースに健康・生き方についての道案内をして活動。

五十嵐廣子(いがらしひろこ)

マクロビオティックをベースとしたビーガン＆オーガニックな、健康で安全なのにファンキーで美味しいビーガニックフードの研究開発に勤む。自然食品の企画・開発、ビーガン料理のメニュー企画、料理教室、セラピスト養成、健康コンサルティング、育児相談など、活動を行なっている。

7/26
(日)

13:00
開場
13:30
開演

ご自身の末期がんを克服した
寺山心一翁先生



自然治癒力を高める

～意識の超越理論から～

自然治癒の過程に欠かせないのは、意識の変化、意識の高まりです。意識が高くなるということは、知識を自分のものとして腑におとし、自己の智慧の領域に入り込むことです。それは、直感を高めることにも通じています。がんの治療の過程で私の意識がどう変わり、それがどう治癒に結び付いたか、体験から得た智慧を話します。

寺山心一翁(てらやましんいちろう)

1936年東京生まれ。1984年に腎臓がんを患う。手術、抗がん剤、放射線による治療を受けたが、がんが肺など他の部位への転移で末期状態になる。「数か月の命」と言われながら、多くの気づきから、ホリスティックな癌の中でもがんが自然治癒。その後、世界各国で、自らの体験発表や自然治癒に関する講演、愛と癒しのワークショップを行なっている。現在、(有)寺山心一翁オフィス代表取締役、日本ウェーラー・ザン・ウェル学会副理事長。ファンドボーン財団評議員(スコットランド)、ISSSEEM理事(米国)。

●著書「がんが消えた～ある自然治癒の記録」(日本教文社) <http://www.shin-terayama.jp/>